

# ひのらこだより

日野町内の幼稚園や保育所・こども園、小・中学校での子ども達の様子や特色ある取り組みの内容を紹介していきます。



## 日野の教育目標



「日野のたから」を未来につなぐ、心豊かでたくましい人づくり  
日野の教育の重点 まち全体で地域の将来を担う子ども達を育成する  
～ふるさと日野を愛し、ふるさと日野に誇りをもつ人づくり～

### いよいよ、小学校では新教育課程が始まります



学習指導要領（国が定める教育課程の基準）が改訂され、4月から小学校では、新しい教育課程に沿った教育が始まります。（中学校は2021年度から）

今回の改訂では、3・4年生で外国語活動年間35時間、5・6年生で外国語科年間70時間設けられ、授業時間が増えることとなります。また、「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」も重視して授業を改善していきます。この改訂を見据え、町や学校では、教育課程を見直し編成してきました。

ALTによる外国語活動の指導

### 社会科副読本「わたしたちの日野」を改訂

日野町では、小学校3年生の社会科では、自分たちの地域について学びます。より地域について深く広く学べるようにするため、社会科副読本を使って学習しています。この副読本も今回の新教育課程への移行に合わせ、新しく改訂します。

教科書の配列に合わせ編成し直し、データも更新しています。町内の3年生の児童は、4月からこの新しい副読本を使って学習します。



現在の副読本

### 先生方も学びを深めています

新しい学習指導要領で求められる学力観に合わせた授業を行っていけるように教員は研修を積んできています。滋賀県で開催される研修会に参加するだけでなく、日野町で推進委員会を組織し研修会を行い、指導技術の向上を図っています。



プログラミングツールを使った授業研修

### 各校にさらにプロジェクター機器を設置します

小・中学校のICT環境整備を進めています。これまでに小学校4年生以上と中学校の普通教室に電子黒板機能付きプロジェクターを設置してきましたが、今年度、小学校1～3年生の普通教室および各校の特別支援学級に



プロジェクターで資料を提示

1～2台のプロジェクターを設置します。例えば社会科の資料や英文などを視覚的に提示したり、子どものノートを映して考えを交流したりして、よりわかる授業をめざします。

### On the job Trainingで実践力を育成

近年は、若手の教員の占める割合が高くなってきています。指導経験が多い教員から学ぶ機会を設けたり、指導力を高めるために指導法について実際に演習しながら学ぶ研修会を行ったりしています。このような教育をオンザジョブトレーニングといいます。



マット運動の指導法を学ぶ

# 正しい設置・維持管理で農地を守りましょう

## ワイヤーメッシュ柵の設置・維持管理

町では、シカ・イノシシによる農業被害の軽減を目的としたワイヤーメッシュ柵が町内のいたるところに設置されており、その総延長は約260kmにもなります。

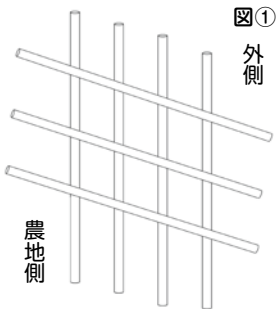
設置によりシカ・イノシシの侵入を防ぐことができるワイヤーメッシュ柵ですが、設置後の維持管理が不十分だと、その効果は一時的なものになってしまいます。

ワイヤーメッシュ柵は設置すれば終わりではなく、その後の維持管理も大変重要です。今回は、ワイヤーメッシュ柵の設置・維持管理についてお伝えします。

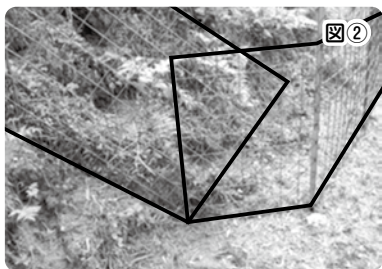
### ① 設置

ワイヤーメッシュ柵の設置にあたっては、まず柵の向きに注意し、横ワイヤーが農地側になるように設置してください。(図①参照)

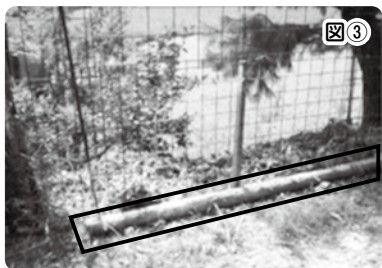
また、柵の設



横ワイヤーを農地側に



すきまなく重ねる



下部に木や竹、塩ビパイプを固定



柵が草で覆われていると、どこから侵入されているか分からない。



草を綺麗に刈れば、点検も簡単になる。

置ルートが斜面から平面に切り替わる際には、ワイヤーメッシュを重ね、すきまが来ないよう注意しましょう。(図②参照)

さらに柵の下部に木や竹、塩ビパイプ等を固定すれば、柵はより強固なものになります。シカ・イノシシは柵を突破しようとする際、まず柵の下をくぐるようになります。「シカは2mの柵を飛び越える」と言われますが、それは命の危険を察知した場合にのみ起こす特殊な行動です。野生で生きる動物にとってけがは生死に関わるため、けがのリスクを言いません。柵の下部を強化すれば、簡単にく

### ② 維持管理

べられる事が無くなります。(図③参照)

柵の設置後は、十分な維持管理により柵の効果を継続させましょう。定期的な見回りを実施すると柵の破損等にいち早く気づくことができます。見回り頻度は月1回以上が望ましいですが、少なくとも四半期に1回以上の見回りを行うようにしてください。

また、定期的な柵の周辺を人が歩くことによって、シカ・イノシシが近づきにくくなります。柵周辺の草刈り、特に山側(獣

の生息側)は定期的を実施してください。草が生い茂ったままになっていると、シカ・イノシシに柵をじつくりと観察できる機会を与えてしまい、再度の侵入を許す結果となります。また、草が生い茂っていると、侵入された際にどこから侵入されているかが分からず、修繕が難しくなってしまいます。(図④参照)

定期的な草刈りを実施し、柵周辺をきれいに保つようにしてください。(図⑤参照)

日野町有害鳥獣被害対策協議会では、柵の設置や維持管理についてアドバイスをさせていただきます。お気軽にお問い合わせください。また、野生獣の侵入箇所等を確認する集落環境点検や出前講座も実施しておりますので、ぜひご利用ください。